

2019年5月20日

国土交通省九州地方整備局 局長 伊勢田 敏様

国土交通省 九州地方整備局 八代河川国道事務所所長 安原 達様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水 晃、上村 雄一、緒方 俊一郎

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:020-4668-3744

瀬戸石ダムの堆砂問題についての要請書

球磨川や不知火海の再生にとって荒瀬ダム撤去の効果は、計り知れないものがあります。全く歩けなかった河口干潟は、砂が供給され始めるとともに、人が入れるようになり、多くの市民がアナジャコ捕りを楽しめるようになりました。稚魚の育つアマモ場は、荒瀬ダム撤去後、次第にその面積を広げています。そのことにより、イカやサヨリが卵を産み付け、えび、うなぎ、底モノと呼ばれる魚も増えています。ダムがあった時は、30cmほどにしか伸びなかった天然の青ノリは、ゲート全開とともに伸びはじめ、すぐに1.5mほどに成長するようになり、今では3m~4m程に成長するようになっています。熊本県の調査でも、川の底生生物は荒瀬ダム撤去前と比較して7倍に増えたことが明らかになっています。

しかし、現在下流や干潟に供給されている土砂は、荒瀬ダム湖に堆積した土砂が供給されているだけです。この土砂が無くなったら、その後は堰と瀬戸石ダムがある球磨川に戻ってしまいます。今、まさしく、下流や干潟への土砂供給の新しい手法を考える時期に来ているといえます。

私たちは、これまで瀬戸石ダム湖周辺住民の聞き取り調査を行ってきました。複数の住民の証言により、瀬戸石ダムのない頃の河床は、現在より少なくとも4m以上、下にあったということが分かりました。瀬戸石ダムの管理運営主体の電源開発株式会社（以下、電源開発）は、現在の土砂撤去処理は「1981年相当河床」にすることを目標としています。しかし、これでは流域の冠水被害はなくなりません。事実、毎年電源開発は土砂撤去処理を行っているにもかかわらず、昨年も芦北町吉尾地区と簔瀬地区で県道の冠水被害が発生しています。元々、ダム湖は、ダムの無い川より水位が上昇し、更に堆積土砂により、もっと水位が上昇するという治水対策上のリスクを抱えています。そのリスクを根本的に無くすには、水位低下と堆積している土砂の撤去しかありません。

以上を踏まえ、貴職には下記の事項を要請いたします。

記

要請事項

1. 瀬戸石ダム湖から球磨川河口干潟への土砂供給の新しい手法を考案し、実施すること。
2. 電源開発に、瀬戸石ダム湖に堆積している土砂をダムのない頃の河床レベルまで取らせること。

質問事項

ダムの定期検査は、ダム湖の状況が分かる冬場になぜ実施しないのか。

以上